

A. 主な動き

1. 内政

▼共産党の動き

・9日、共産党は、第7回党大会を開催し、ヴォローニン党首の再選を決定。また、同党は、モルドバの関税同盟への統合を支持する旨発表。

・13日、議会共産党会派は、2月から継続してきたボイコットを中断し、議会に復帰。14日、ヴォローニン共産党党首は、同党は民主主義及びモルドバの独立のために議会に復帰したとし、政治の停滞を打破するための方策の提案を行う意向である旨発言。

・15日、共産党は、昨年銀行買収事件に関与した疑いがあるとして、ブラホトニク議会第一副議長(民主党副党首)の辞任を要求。

▼世論調査

[モルドバ社会・人口学協会]

・次の日曜日に議会選挙が実施された場合の政党支持率(投票意思の無い者を除く)

共産党:39.3%、自由民主党:25.3%、民主党:14.4%、自由党:12.9%等

・調査は6月1日から10日にかけて1,591名の成人を対象に実施。

2. 経済

▼貿易

・12日、国家統計局は、モルドバの貿易赤字額が、本年の1-4月期は対前年同期比8.5%増の9億4,390万ドル(輸出は同5.8%増の6億8,700万ドルだった一方、輸入は同7.4%増の16億3,090万ドル)に達した旨を報告。

・12日、モルドバ経済省は、EUとの深化した包括的自由貿易協定(DCFTA)に関する第二回協議がブリュッセルで開始、モルドバ側はカルミック経済省次官が代表で、将来のDCFTAのそれぞれの章の法律的側面に焦点が当てられる予定である旨発表。

3. 外政

・13日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、イタリアを訪問し、中欧イニシアチブ外相会合に出席。また、同副首相は、訪問先のイタリアで、グリシチェンコ・ウクライナ外相と会談。

・15日、ティモフティ大統領は、セルビアを訪問し、ベオグラードにおける南東欧協力プロセス首脳会合に出席。同日、同大統領は、プレヴネリエフ・ブルガリア大統領、イヴァノフ・マケドニア大統領及びニコリッチ・セルビア大統領とそれぞれ会談。

4. 治ドニエストル

・11日、カミンスキー「最高会議議長」は、「最高会議」最大与党である「改新」党の世代交代のため同党党首を辞職する意向である旨発言。

・13日、カミンスキー「最高会議議長」は、「議長」辞任を表明。これを受け、「最高会議」は、ブルラ「副議長」を新「議長」に選出。

5. 防衛

・13日、政府は、ストイアン准将を参謀総長兼軍司令官に任命。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)